

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

本市は、「住み続けたいまち」「訪れたいまち」を実現するため、2都心4副都心を拠点とする集約・ネットワーク型都市構造を目指したまちづくりを進めているが、拠点の中でも広域計画における位置づけや都市再生緊急整備地域の指定を受けた大宮駅周辺地区と、次世代自動車・スマートエネルギー特区の指定を受けた取組を先行して進めており2020東京五輪の開催地域でもある美園地区を主な対象とする。

【大宮駅周辺地区】

本市の都心の一つである大宮駅周辺地区では「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」において、「東日本の顔となるまち」、「おもてなし、あふれるまち」、「氷川の杜、継ぐまち」を将来像とし、おもてなし都心ゾーンの形成、シンボル都市軸の形成、おもてなし体感空間の創出、をまちづくりの方針として掲げている。

また「首都圏広域地方計画(H28.3)」において、大宮は東日本創生回廊の結節点、東日本を連結する対流拠点、首都直下地震発災時のバックアップ拠点としての役割、更にリニア中央新幹線開通を見据えた「東日本地方創生回廊とスーパー・メガリージョンとの連携拠点」としての機能が期待されている。このような状況を踏まえ、本市では、昨年7月に「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」を策定し、「東日本の玄関口として東日本全体の発展を牽引する役割」「東京一極集中に伴う日本経済の災害リスク軽減とともに、安心・安全な市民生活を持続させる役割」「多彩な地域資源や空間の良さを活かしながら、これからの働き方やライフスタイルを先導・提案し、市域全域に波及させる役割」を果たすため、駅周辺街区の市街地再開発事業等をはじめとしたまちづくり、駅前広場を中心とした交通基盤整備及び乗換利便や安全性を向上する駅機能の高度化を三位一体で推進している。

【美園地区】

本市の副都心の一つである美園地区は、スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとした拠点として、埼玉スタジアム2002をはじめとする地域資源を生かしながら、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、安心して快適かつ健康的なライフスタイルを実現しつつ、コミュニティの中で楽しく、豊かな時間を享受できる“スタジアムタウン”となることを目指しており、まちづくりの基本理念「新価値創造都市」、「多世代健康都市」、「次世代環境都市」を掲げている。こうしたなか、本市が目指す「スマートシティさいたまモデル」を本地区で先行実装すべく、「公民+学」の連携により、最先端の技術や知見を活かしながら、生活環境向上に向けた地域サービスの創出や快適で魅力ある都市環境の実現・維持などに取り組んでいる。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

| 解決する課題のイメージ | 課題の分類 |
|---|-------|
| <p>【大宮駅周辺地区】</p> <p>①(ア)交通・モビリティ ・鉄道相互の乗換距離が長く乗換経路が非常に混雑している、また鉄道とバスの乗換距離が長い等、公共交通の乗換利便性・快適性を向上させていく必要がある。 ・東口を中心に駅周辺において慢性的に渋滞が発生していることから、道路ネットワークの強化・拡充や交通需要マネジメントの導入等により解消していく必要がある。</p> <p>②(イ)エネルギー(ク)環境 再生可能エネルギー、省エネルギーシステム、開発街区の連携による地域エネルギーシステムによる安定的かつ効率的なエネルギー供給と、災害時にインフラが途絶した場合にも生活・業務を継続できる環境の実現に向けた取組を進めていく必要がある。</p> <p>③(ウ)防災 ・首都直下地震等の発災時における多数・多様な滞留者の発生への備えや地域に跨る円滑な避難誘導を確保する必要がある。</p> <p>④(オ)観光・地域活性化(シ)その他 ・氷川神社や見沼田園等、多彩な地域資源や豊かな自然を身近に感じることのできる環境を備えており、東京都心にはない大宮の強みを活かしていく必要がある。 ・憩いの空間の少なさからくる歩行者の快適性に課題があるほか、鉄道東西を跨ぐ動線が限定的で、まちの賑わいの広がりで弱みを有している。また、都市再生の観点では、業務機能の受け皿が不足し商業機能のリニューアルも停滞していることから、まちの回遊性の向上や新たな都市機能を導入していく必要がある。</p> <p>【美園地区】</p> <p>①(ア)交通・モビリティ(オ)観光・地域活性化(サ)コンパクトなまちづくり 自転車・PMV等の車両シェアリングサービス普及や域内循環交通の導入による居住者・来街者のモビリティを確保していく必要がある。</p> <p>②(ア)交通・モビリティ(オ)観光・地域活性化 埼玉スタジアム2002でのサッカー開催等大規模イベント時の交通マネジメント(渋滞対策による公共交通利便性向上・確保)を推進していく必要がある。</p> <p>③(ウ)防災(オ)観光・地域活性化 埼玉スタジアム2002に隣接する河川調節池の底面を活用した広場(今後整備を予定)について、河川調節池という性質を踏まえた利用者の安全確保や、維持管理費低減に向けた運営効率化を推進していく必要がある。</p> <p>④(シ)その他 都市基盤整備の進展に伴い住宅等新規開発が活発化しており、住宅管理履歴システムを用いた住宅資産価値をマネジメントしていく必要がある。</p> <p>⑤(オ)観光・地域活性化 既存ルールを補完しつつ魅力的な街並みを誘導・維持向上するための「デザインガイドライン(作成中)」の実効性確保に向け、合意形成のもと運用方を構築する必要がある。</p> | |

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

【大宮駅周辺地区】(導入検討可能性のある技術イメージ)

①・③・④

- ・GPSやセンサー等を用いた歩行者交通流動(歩行経路毎、滞在施設毎)の実態把握、モニタリング
- ・上記のデータを活用したスマートプランニングによる歩行回遊シミュレーションの構築
- ・可視化ツールを活用した、歩行回遊シミュレーションのビジュアライゼーション、オープン化

③・④

- ・地域ポイント事業、健康ポイント事業(美園地区で導入済み技術を拡張)の技術や情報配信技術等による歩行回遊を促進・支援するICTサービス

【美園地区】(導入検討可能性のある技術イメージ)

① ・GPS等による車両ロケーション管理や、乗降データ・車両ロケーションデータ等の利活用技術(IoT・AI・ビッグデータ等)

② ・地区内幹線道路の各交差点における断面交通量・渋滞長・滞留長等のセンシング技術、AIを用いたダイナミックプライシング技術

③ ・河川水位のセンシング技術、AIによる予測技術

④ ・BIMデータを用いたデータベース技術

⑤ ・ICT技術を活用した変容性のある空間の可視化システム

(4) 解決の方向性(イメージ)

【大宮駅周辺地区】

①③④

- ・スマートプランニングの観点から、車、自転車、人の交通流のビッグデータを解析し、氷川参道の歩行者専用化等、道路空間の使い方の見直しを促進していくとともに、道路空間沿道のオープンスペースも活用した、たまり場や憩い・賑わいの場を創出する等、快適な空間を形成していく。

③④

- ・ICT機器を活用して、平時において人の行動を変容させることにより、まちへの歩行回遊性を促進させるとともに、災害時には円滑な避難誘導を支援し、安全・安心都市としてのブランドを確保していく。

【美園地区】

① ・ニーズに応じて車種選択可能なシェアリングシステムの導入・普及、域内循環交通の効率的運行や地区内各拠点施設との連携(利便性向上)を促進していく。

② ・交通量のモニタリング・予測をもとにした、シャトルバス優先走行に係る交通規制解除等の判断や、民間駐車場と連携した駐車料金の動的設定に活用していく。

③ ・気象情報や河川水位情報のモニタリング・予測を基にした、調節池底面広場の開放・閉鎖の判断・アラート発信等に活用していく。

④ ・ホームインスペクションの効率化および住宅資産価値(試算)可視化を通じた適切なメンテナンス・修繕を促進していく。

⑤ ・デザインガイドラインを実装した空間イメージの可視化による、市民・事業者の合意形成を図っていく。

(美園地区等で実施している既存プロジェクトの技術を踏まえつつ、既存技術の拡張や新技術の導入を検討していく。)

(5) その他

(既に実施中のプロジェクト)

【大宮地区】

①③④ GPSデータ等による交通実態調査を実施中

③④ 路上変圧器を活用した防災・観光デジタルサイネージ実証実験

・シェアサイクル普及事業(公民連携による市内全域展開)

【美園地区】

① 自転車を核に導入済みのモビリティ・シェアリングの仕組みをどう拡張していくか研究中(マルチ・モビリティ・シェアリング実証事業)

② サッカー試合後の交通渋滞により利便性低下の進むシャトルバスの走行性改善に向け、2020年東京五輪を短期目標に、シャトルバス優先走行化交通社会実験を2018年度に着手

③ 調節池底面の高質化整備を計画中

④ 国交省「住宅ストック維持・向上事業」を活用して2017年度・2018年度にシステム構築

⑤ デザインガイドラインを作成中(本年度内に素案作成)

・総務省「データ利活用型スマートシティ推進事業」を活用して2017年度に地域ポイント事業の実施に向けた基盤づくりを進め、2018年度より事業着手

・総務省「データ利活用型スマートシティ推進事業」を活用して2017年度に情報共通基盤システム「共通プラットフォームさいたま版」の整備を進め、2018年度には総務省「情報信託機能活用促進事業」を活用してヘルスケア分野で実証事業を実施中

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

| 部局名 | 担当者 | 連絡先(電話) | 連絡先(メール) |
|-----------------|-------|--------------|--|
| 都市局 都市計画部 都市総務課 | 中島、玉置 | 048-829-1394 | toshi-somu@city.saitama.lg.jp |